

平成 31 年 3 月

第 1 委員会報告資料

福岡市データ活用推進計画（原案）の概要

・・・

1 頁

（ ・ 福岡市データ活用推進計画（原案）

・・・

別添資料 ）

総 務 企 画 局

福岡市データ活用推進計画（原案）の概要

1. 策定の趣旨・目的

- AIやIoT、ビッグデータなどの先端技術が急速に身近なものとなりつつある一方で、行政のデータを有効利用することが求められている状況。
- 将来の人口減少・労働力不足などの社会課題や地域の諸課題を解決するために、AIやIoT、ビッグデータなどを活用し、持続可能な市政を支える基盤とすることが必要。
- 誰もが便利で快適な「Society5.0（超スマート社会）」を実感できることを目指し、基本的な方針と具体的な取組を計画として定める。

2. 計画期間

- 計画期間は、**2019年度から2022年度までの4年間**
- 計画策定から2年経過した時点で、必要に応じて2021年度以降の計画を見直す。

3. 3つの視点

- ①市民や企業との共働により多様なニーズをつかむ ～共働によるサービスデザイン
- ②デジタル化、オンライン化を原則とする ～デジタルファーストの徹底で、ノンストップな手続き
- ③実験的な取組にチャレンジする ～まず試作をして実証してみる

取組のイメージ



4. 個別施策

市民の 利便性の 向上	(1)行政手続きのオンライン化	電子申請可能手続きの拡充，押印の見直し，添付書類の省略・デジタル化
	(2)AIなどのICTを活用した市民サービス	AIチャットボット，区役所窓口でのICT利活用，手数料・公共施設利用料のキャッシュレス決済
	(3)超高齢社会に向けたICTなどの利活用	スタートアップ企業のアイデアを活用したケア分野の課題解決，ICTによる地域ニーズの見える化
	(4)ユニバーサル都市・福岡の実現	バリアフリー情報の発信，多言語による情報発信
	(5)安全・安心を支えるサービス	河川などインフラ監視強化，子どもの見守り，防災・防犯情報の発信
	(6)観光分野でのデータ活用	ビッグデータとAIを活用した観光案内の提供と多言語化
	(7)様々な分野でのICT利活用	人流分析による都市交通の快適性向上，ICTを活用した土木工事，スマート農林水産業の推進
行政事務 の効率化・ 高度化	(1)AI,IoT等を活用した行政事務の効率化	IoTを活用したインフラの維持管理，RPAの活用による業務効率化
	(2)データを活用した政策立案	市職員へのデータ活用研修，保健福祉分野でのEBPM（証拠に基づく政策立案）
環境整備 の取組	(1)オープンデータの推進	オープンデータの充実，データ活用事例の創出，広域連携
	(2)民間と連携したデータ活用の推進	公民連携ワンストップ窓口「mirai@」，福岡AIコミュニティ，実証実験フルサポート事業
	(3)市民との共働によるデータ活用の推進	市民向けイベント実施，市民団体との連携
	(4)人材の育成	市職員へのデータ活用研修，エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進

5. 計画の推進に当たって

推進体制	「情報化推進会議」の下に，福岡市のデータの活用を推進するための部署横断的な議論を行う場として「官民データ活用推進委員会」を設置し，情報部門が事務局として進行管理を行う。
セキュリティ 個人情報 の保護	サイバーセキュリティに係る法律や条例に基づく適切な情報システムの運用体制を確保するとともに内部監査，外部監査を毎年実施し，情報システムごとのリスクの評価，管理体制のチェックを行う。 市民の個人情報の保護の観点から，関係法令や条例に基づく安全管理措置を徹底する。

オープンデータ

国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、②機械判読に適したもの、③無償で利用できるもの、といういずれの項目にも該当する形で公開されたデータのこと。

キャッシュレス決済

クレジットカード、電子マネー、QRコード（二次元コード）をスマートフォンで読み取るなど、現金を使用せずに支払決済を行うこと。

クラウド（サービス）

従来は利用者が手元のコンピュータで利用していたデータやソフトウェアを、ネットワーク経由で、サービスとして利用者に提供するもの。

チャットボット

Chat（チャット：おしゃべり）とbot（ロボット）を組み合わせた「ロボットによる自動会話プログラム」のこと。利用者と文字で会話をし、データベースから適切な回答を選んで自動的に回答する対話型のコミュニケーションが可能であり、必要な情報の提供や、手続の受付などに活用されている。人工知能（AI）を使ったAIチャットボットも普及しつつある。

デジタルファースト

デジタル技術を徹底的に活用し、デジタル処理を前提としたサービス設計を行うこと。

ビッグデータ

ボリュームが膨大でかつ構造が複雑であるが、そのデータ間の関係性などを分析することで新たな価値を生み出す可能性のあるデータ群のこと。例えば、ソーシャルメディア内のテキストデータ・画像、携帯電話・スマートフォンが発信する位置情報、時々刻々と生成されるセンサーデータなどがある。

5G（ファイブ・ジー）

「超高速」だけでなく、「多数接続」「超低遅延」といった特徴を持ち、平成32年の実現が期待されている次世代の移動通信システムのこと。2020年の商用サービス開始を目指して、研究開発の推進、国際連携の強化などの取組が進められている。現行の第4世代の通信方式（4G）と比べて100倍の接続機器数、100倍の通信速度などが要求条件とされており、世界各国でも実現に向けた取組が本格化している。

AI（エーアイ：人工知能）

Artificial Intelligenceの略。人工的な方法による学習、推論、判断等の知的な機能の実現及び人工的な方法により実現した当該機能の活用に関する技術のこと。

IoT（アイ・オー・ティ）

Internet of Things（モノのインターネット）の略。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すという概念を表した語である。

RPA（アール・ピー・イー）

Robotics Process Automation（ロボットによる業務自動化）の略。定型的な作業をソフトウェアのロボットに行わせることで、業務の効率化が期待できる。

Society5.0（ソサイエティ・ゴーテンゼロ）

サイバー空間と現実空間を高度に融合させることにより、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細やかに対応したモノやサービスを提供することで経済的発展と社会課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる、人間中心の社会。

今後のスケジュール

原案の議会報告（2019年3月）

パブリックコメント実施
（4月）

成案の議会報告
（6月）

